

新年を迎えるにあたって

会長 飯塚弘志



新年明けましておめでとうございます。皆様にはお揃いで、新しき良き年をお迎えになられたことと思います。21世紀に突入し早や4年目、前世紀の失われた10年の回復と新しい世紀の希望のもてる改革を期待し小泉内閣が誕生した。

爾来、昨年の新語・流行語大賞となった野中広務前代議士の“毒まんじゅうを食った”じゃないが“毒まんじゅうを食わされ”続けている。

一昨年からの矢継ぎ早の痛み、まさしく医療機関は瀕死の状態である。過日発表された中医協での医療経済実態調査の結果を見ても、収支状況は2桁台の落ち込みである。まさしく医業経営は危殆に瀕している。さらに財務省は今回の診療報酬改定も諸般の経済指標からマイナス改定を主張している。“なんでだろう～”まさに最後のトドメを刺そうとしている。

新年早々、愚痴めいた話となったが、苦しいほど、臍下丹田に力を入れて耐えなければならない。そしていつも冷静に改革の時代をしっかりとみつめる確かな目をもっていることが肝要であろう。勇気を失うことが一番恥なのである。

日医会長選挙もあと3カ月足らずとなった。

柔軟な発想と改革の意識を常に持ち、それを実行していく人物、人間としての明るさ、包容力、人間としての賢さ、判断力、人間としての強さ、実行力、この三つを兼ね備えた青柳俊君を是非とも当選させ、この危機的状況を打破していかなければならない。

昨年北海道では、医師の名義貸しの問題で、揺れに揺れた。医の倫理の高揚という基本的活動方針のもと、とりわけ保険医療に関わる問題で頻繁に研修会を開催した。どれだけ実効があるか、疑問の向きもあるが、今年も引き続き積極的に開催してまいりたい。自浄作用の発揮があって、はじ

めて信頼される医師会となるのである。

昨年からテレビ会議システムのケーススタディを何度か行ってみた。テレビ会議そのものの限界はあるが、活用することは大いに意義のあることと判った。

今年は皆様のご理解、ご協力をいただきながら、一歩ずつ実行していく所存である。

道民健康教育センターの閉館にともない、手狭となった会館の一部改装工事を現在行っている。まもなくその工事も完了することであるが、少しは先生方にも快適な空間を提供することができることと思う。

今年の7月には参院選挙がある。3年前の武見選挙でははなはだ不本意な結果であった。この結果がその後の医療問題に種々の陰を落としていることは周知の事実である。

今回の西島選挙はそのような結果を出してはならない。我々の力を客観的に示す絶好の機会である。我々の存在を誇示しなければならない。

確かに政治なくして医政なし、医政なくして医療なしは本当である。

本年は私の3期目の任期半ばを迎える。いつものことながら、常に緊張感を持ち、倦まず弛まず、じつくりと事に当たってまいりたい。

常に人の話に耳を傾け、適切に判断してまいりたい。

物事を理解し、知恵として、創造的に実行していくことを忘れてはならない。いつも自戒している。

本年も先生方のご理解とご支援をいただきながら、情熱を失うことなく医療界の明るい朝を創るべく精一杯努力を傾注することを誓い、新年にあたってのご挨拶といたします。